

## ○札幌市立高等学校BYODに関するQ & A

Q：なぜOSを統一する必要があるのか。

A：授業に支障なく端末を使用できるようにするためには、生徒それぞれの端末の設定情報に差異が無いよう、リモートで一括設定できる端末管理ツール「MDM」環境を整える必要がありますが、OSが統一されていないとMDMを導入することができません。

仮にMDMを導入しない場合、教育用ソフトやアプリについて、一部の端末では使用できるのにそれ以外の端末で使用できないといった問題や、授業中にOSのアップデートが発生して使用できないといった問題が生じる可能性が高いと考えています。

他にも、紛失時にリモートロックができないことや、セキュリティ対策がされていない端末が学校ネットワークに接続されること等による、情報漏洩のリスクも高まると想定されます。

以上のことから、使用する機器のOSを統一し、MDM導入による一元管理を行うことが必要と考えています。

Q：なぜOSを「chromebook」に統一するのか。

A：先の質問の回答のとおり、OSを統一してMDMを導入する必要がありますが、MDM環境を一から構築する場合、端末の初期設定時に9,000円/台程度発生するほか、ライセンス料とフィルタリングソフト費用も毎年6,000円/台程度発生し、市の財政もしくは保護者にとって大きな負担となります。（費用は開成中等での実績）

OSをchromebookに統一した場合、小中で既に構築した環境を流用できるため、これらの費用がほぼ発生しないことや、小中からの使用方法の継続性等を考慮し、chromebookに統一することが適切と判断しています。

Q：なぜ機種を統一する必要があるのか。家に Chromebook があるが、それを持ち込むことはできないか。

A：学校に既に設置済の無線 LAN と、端末に内蔵された無線子機の相性により、ネットワークに接続できないトラブルを回避するには、事前の検証が必要ですが、全ての機種について検証を行うのは現実的ではありません。  
同様に、教育用ソフトやアプリについても、機種が統一されていない場合、特定の機種で使用できないといった問題が生じる可能性があり、事前検証を行うことが必要になるため、機種についても統一することが望ましいと判断しています。

Q：なぜ斡旋販売の取扱業者を指定したのか。個別に購入してはいけないか。

A：斡旋販売による一括購入をすることで、同一機種の市販価格よりも安く、かつ、必要に応じて、在校中の故障や事故をカバーする保険をつけて保護者に購入してもらうことが可能になります。  
また、初期設定時の端末の MDM への登録や無線 LAN への接続設定を、斡旋販売事業者で一括して行うことにより、学校及び生徒・保護者の手間を減らすことができることから、斡旋販売事業者の選定を行っています。

Q：タブレット端末を購入せず、スマートフォンで代替できないか。

A：文部科学省「平成 30 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針について」では、「文字の判別のしやすさを踏まえた画面サイズを有すること」、「小学校中学年以上では、いわゆるハードウェアキーボードを必須とすること」とされており、これに基づいた対応が望ましいです。  
また、生徒それぞれのスマートフォンの仕様の差異が大きいため、一部の端末で教育用ソフトやアプリが使用できなかったり、学校ネットワークに接続できなかったりといった技術上の問題のほか、フィルタリングソフトによる閲覧制限ができないため、生徒が授業中に他の事をしてしまったりと

いった問題も考えられ、現状ではスマートフォンによる代替は難しいと考えています。

Q：家庭に Wi-Fi が無い場合、どうすればよいか。

A：タブレット端末については毎日持ち帰り、教員からの課題を自宅で取り組むなどの活用を想定しているため、家庭に Wi-Fi 環境を整えていただくことが望ましいです。また、生徒や保護者がお持ちのスマートフォンのテザリング機能により、タブレット端末をインターネットに接続することも可能です。

なお、経済的事情がある世帯の通信費についてですが、高校生等奨学給付金受給世帯については通信費相当額の増額がされております。生活保護受給世帯については保護費からの支給があるので、担当部署にご相談ください。